

予備合宿の感想

予備合宿の少し前に新歓ランカあったが、これは足場よし程度のものでツーリングと呼ぶほどのものではなかった。だから、僕にとりてこの予備合宿は東工大サイクリング部へ入部してから最初のツーリングといえるものであった。そのせりもあって、予備合宿前は予備合宿に行くことについて抜々の不安を抱えていた。まず、コースについては、全精峠などかなりきつい道が含まれていたので、無事に完走できるかと不安であった。しかし、実際はそれまでの経験から、多少きつり玉りでも根性を出せばなんとかなるものかと、というところがわかっていたので、それほど不安ではなかった。また、自転車についても、しばらく整備をしてきたので、どこか故障をもするのではないかと不安であったが、これもそれまでの経験から、少し位の故障ならその場で直すことができるものかと考えていたので、それほど不安ではなかった。そのほかにも不安の材料はたくさんあったが、なんととりつてもこの予備合宿における最大の不安は、この合宿がキャンピングである、という点である。それまでのツーリングというものは、かなり経験して来たがキャンピングというものは、これまで、全く初めての経験であった。テント・シュラフ・コッヘルなど、それまで見たことはあっても使うのは初めてというものがたくさんあった。だから、こんなテントの中で何人とも寝られるのだろうか、とか、こんなコッヘルでまともな料理ができるのだろうか、

きととり、いろいろ考えると非常に不安であった。しかし、不安ばかりでなく、好奇心も多少あったことは事実である。

さて、このように数々の不安を持ってこの予備合宿に参加したのであるが、なんとかなり無事に終わった。そこで、次にこの予備合宿を終えてからの感想を述べる。まず、一番不安に思っていたキャンプについては、ちかちかおもしろいものか、という感想を持った。ただし、食事が非常にあわただしく、金へたばかりであった。この予備合宿ではキャンプが二回だけだった。のでまあよかったが、有日もあのような食事が続いたらとてもつらいけさかったであろう。また、コースについては、実際に走ってみて感じているか否かよりコースであったと思う。その他、この合宿ではいろいろのことがあり、それぞれいろいろのことを感じたが、僕にとって最大のできごとは、なんと行って金精峠のエリアでのハーストである。ハーストと行ってまたのハーストではなく、タイヤのサイドが切れてしまったのである。自転車に少し位の故障があれば直せる、と思っていたが、ハースト部分を見ても瞬間、「ダメだ！」と思った。しかし、富田さんたちのおかげでなんとかが完走することができた。自分のことだから、よく完走できたものかと感心した。

最後に、この予備合宿について考えることは、短期間の間にトラブルがわかった、ということである。僕のハーストの他にも同じユッケンソンのタイヤのハーストがあった。また、急な下り

のカーブでの転倒があった。そして、これらのトラブルのために
合宿を短縮しなければならなかったのは残念であった。

最後の最後に、この平偏合宿における教訓。

気をつけよう。急な下りとユッチンソン

名 取 哉